紙面のガーデニング
被災地：石巻専修大学の桜

浦学だより

Vol. 85

URAWAGAKUIN HIGH SCHOOL

2011.6.1

〒336-0975
埼玉県さいたま市緑区代山１７２
TEL 048-878-2101　FAX 048-878-3335
http：//www.uragaku.ac.jp/
発行者　浦和学院高等学校広報部
編集者　浦和学院高等学校企画部

今、浦学で何ができるか。

23年度の本校の指針

学校法人明星学園理事長
浦和学院高等学校長　小沢　友紀雄

「東日本大震災」

この未曾有の難局にあたり、「今、浦学で何が出来るか。」を考え、行動する必要があります。当校の基本的な姿勢は、「常に前向き、そこに夢と希望がある」であり、それはどのような環境であっても変わりません。

被災地の皆さんのことを思いやりながら、大きなマイナスを大きなプラスに変えていくプラス思考が、このような時期であればこそ重要なのです。

春の選抜高校野球大会の甲子園出場を勝ち取った野球部の皆さんの頑張りを讃えながら、用意した全校での応援のエネルギーを被災地の皆さんへの援助に振り向けた当校の皆さんの素早い対応は素晴らしかったと思います。今後も、被災地への思いやりを継続し、今、浦学の私たちに何が出来るかを皆で考え、行動していきたいと思っております。

そして、「チャレンジの精神を持って常に前向きに行動すること。」が今年の皆さんの一つの行動目標です。進学も一ランク上を狙い、一般入試にチャレンジし、部活動ではそれぞれの部の個性の中で最高の成績をあげて下さい。その達成感は皆さんの一生の中で、素晴らしい感動の宝石として心の中にいつまでも燦然と輝くでしょう。是非頑張って下さい。

国際教育の浦学の事業の一環として、中国の上海師範大学付属高校と大連第十六高校と姉妹校になりましたが、世界遺産であるアンコールワットから5分のところに新たに浦和学院カンボジア中学校が出来ることになりました。従来の海外留学、交換留学、オーストラリアのファームステイなどのプログラムとともに、今後ますます国際交流を推進していきます。浦学生としての国際的なセンスを身に着ける普段の努力も忘れないで下さい。

学校方針として決めた「オンデマンド講座」の導入は、今後の当学校の教育で重要な位置を占めます。生徒の皆さんの活用を学校の意思として推進するので、そのつもりで取り組んで下さい。「リテラシー教育」も、新しい考え方で推進することになりました。これらの取り組みの根底には、いかに自分で感じ、考え、まとめ、表現し、行動することが出来るか、その能力をいかに育むか、ということがあります。自ら考え、素晴らしい行動が出来る生徒を浦学は育てていきたいのです。

新しく浦学ファミリーの一員となった新一年生の皆さん。皆さんは浦和学院高等学校の輝く希望の星です。大きな大きな目標を持って学校生活を送ってください。浦学はそうした一人一人の生徒の皆さんの個性に合わせた教育のできる先生が多数おります。浦学は教職員・生徒・保護者・後援会・同窓会が大きな浦学ファミリーとなって、「頑張る仲間を皆で応援」して行きます。

第83回選抜高校野球大会出場！

6年ぶり
7回目の出場

秋季関東大会優勝・明治神宮大会ベスト4

本校は、2010年10月に行われた秋季関東大会で見事優勝を果たし、明治神宮大会出場を果たしました。明治神宮大会では初戦で東北高校に7－2で快勝。2回戦は日大三高と対戦し、惜しくも5－2で負けてしまいましたが、ベスト4というすばらしい成績を残しました。

そして、2011年3月に開催された第83回選抜高校野球大会に出場が決定。

注目の１回戦の相手は、秋季九州地区大会で優勝した鹿児島実業高校。秋季地区大会優勝校どうしの対戦とあって大きな注目を集めました。

１回表、浦和学院の攻撃は先頭バッターからヒットを打ち、順調な滑り出しでした。その後のバッターもバントやヒットで続き見事先制点を入れ、2回以降も良いペースで得点を重ねていきました。しかし、相手も強豪校とあって、4回までは、１点取れば取り返される、という手に汗握る試合展開となりました。

そして、3対2とリードして迎えた5回裏、バッテリーミスからランナーを出し、一挙に2点をとられて逆転。その後6回にも1点を追加され結果は5－3で負けてしまいました。

選手たちは「がむしゃら」を合言葉に日々練習に取り組み、甲子園出場を掴みこの日を迎えました。今回は残念な結果となってしまいましたが、一生懸命プレーする選手たちの姿はまさにがむしゃらでした。次は夏の甲子園に向けてがんばってほしいと思います。

3月11日の東日本大震災のため、応援指導委員会と生徒の学校応援は自粛しました。甲子園での応援参加ができないので、【浦学ファイアーレッドポンチョ】にクラスごとに生徒全員が記名し、そのポンチョを野球部の応援生徒が着て現地で応援するということになりました！

浦学の野球部、そして東日本大震災の被災者の方々を応援する気持ちがこのポンチョに込められています。

全国選抜大会　**テニス部（男子）**　ベスト16　3回戦（団体）2-3　大分舞鶴【3/20～25　福岡県博多の森】

※今回の東日本大震災の影響により、パワーリフティング部の選抜大会は中止、ソングリーダー部の「USA Nationals Japan 2011」は5月に延期となりました。

平成22年度「現役進学率」

特進推進部長（旧・進路指導部長）角道俊哉

大学・短大
現役進学率 86%
（3年連続85%以上）

平成22年度卒業生の進路状況は、大学短大現役進学率86%で3年連続85%以上を達成しました。また、大学だけでも現役で3年連続80%以上の生徒が合格をし、「現役合格の浦学」を確立することが出来ました。現役進学率とは、1人の生徒がいくつも合格しても1人として算出した実数値から、大学・短大への入学を辞退した進学準備の20名を除いた進学実数値です。これは、卒業生の頑張った証でもあり「浦学の進路指導」の成果です。**「3年連続85%以上」**の現役進学率は県内でも常に10番以内に入る進学校となったことを意味し、具体的な合格校は下記の通りです。

「浦学の進路指導」は、面倒見のよい進路指導です。どのような状況になろうとも、1人も見捨てたりしません。浦学生である限り、希望の進路を実現できるようきめ細かな進路指導をしていきます。現役進学率とは、**「現役面倒見率」**と呼んでも過言ではありません。

浦学の進路指導の第1は、**「生徒との面談」**にあります。すべての生徒に1年生の1学期から年5回のクラス担任による面談をしていきます。そのうち1回は保護者の方を交えて三者面談を実施します。ここで面談された進路活動に関わる内容はすべて担任により入力され、評定・出欠状況・模擬試験結果・志望校判定とともに蓄積され、**「個別情報一覧表」**として1年生の3学期から定期的に配布されます。保護者の方も知りたいときにいつでもご覧になることができ、ご家庭での進路相談に大いに役立っています。

進路指導の第2は**「生徒自身の情報収集」**にあります。2年生の3学期になると、進路仮決定の時期ということで多くの生徒が昼休みや放課後に進路指導室にやってきます。その情報収集の決め手は、浦学独自で作成した**「受験校診断表」**であり、進路指導室に何台も設置されている生徒用パソコンで各自が自由に見ることができます。受験校診断表は、あらゆる学校の入試情報を確認できるだけでなく、志望校への合格の可能性を判定することができます。情報は短時間で確認出来なくては意味がないため、10分間の休み時間でも即座に知りたいことを得られるようプログラムされています。

進路指導の第3は**「授業とオンデマンドを含む講座」**が充実していることです。センター入試を含む一般入試に対応するための最低限の内容を授業だけでなく放課後の講座で実施していきます。特に今年度より、一括型受講型の講座だけでなく自分の受けたいところを自分のペースで受講できるオンデマンド講座を導入し、より生徒の状況にあった学習システムが確立されています。

進路指導室には進路担当の教員が常駐しています。質問に対応するだけでなく、受験先・受験方法の最終決定についての面談を実施します。クラス担任だけでなく、進路担当の教員も面談することで校内の連携を図り、即座に面接・小論文・学力試験への対応を指導していきます。

新3年生の諸君、更なる成果を目指し、先生方を大いに信頼し頑張っていきましょう。

「22年度進学実績について」

ここ数年で大学入試は大きな変容を見せています。様々な大学で学部学科の改組を行い、また文科省の通達により、推薦・AO入試の見直しをしています。今まで以上に、これからの大学入試では、強い意欲と将来への明確なビジョンを持った生徒が求められてきます。

本校では外部の講師を招いて行う「キャリアガイダンス」「学部学科説明会」「大短説明会」や、年間5回の面談など、進路意識を高めるための進路指導を先駆けて行っていました。そのため、22年度の入試結果も高い現役進学率を維持することができました。卒業生は、自分の未来に向けて納得して進学先を決めて行った者ばかりでした。進路選択は自分の将来の幸せをつかむ第一歩です。ぜひ、在学生の皆さんもこれまでの先輩方に続き、納得のいく進路を勝ち取って行ってください。

進路指導部副部長
菅原美香（旧3学年進路指導主幹）

平成22年度 現役生受験結果

（合格者　延べ数）

4年制大学	
国公立大学	
青森公立大	1
宇都宮大	1
釧路公立大	1
群馬大	1
国際教養大	2
埼玉県立大	3
首都大東京	1
信州大	3
高崎経大	4
千葉大	1
筑波大	1
電気通信大	4
新潟大	1
名桜大	3
横浜国立大	1
国公立大学 小計	**28**
私立大学	
青山学院大	4
青森大	1
亜細亜大	8
跡見学園女子大	10
浦和大	1
江戸川大	2
大妻女子大	6
嘉悦大	2
学習院大	1
神奈川大	1
川村学園女子大	1
関西学院大	1
神田外語大	1
共愛学園前橋大	1
共栄大	4

私立大学	
共立女子大	3
杏林大	4
慶応大	1
恵泉女学園大	1
工学院大	11
国士舘大	20
甲南大	1
駒澤大	13
駒沢女子大	4
埼玉医科大	2
埼玉学園大	6
埼玉工業大	7
札幌学院大	1
実践女子大	2
芝浦工業大	2
種智院大	1
聖心女子大	1
十文字学園女子大	7
淑徳大	16
駿河台大	17
順天堂大	1
女子栄養大	2
女子美術大	5
尚美学園大	24
上智大	2
上武大	1
城西大	38
城西国際大	7
成城大	1
成蹊大	4
清泉女子大	3
聖学院大	19
聖徳大	8
西武文理大	10

私立大学	
専修大	5
大正大	6
大東文化大	34
高崎商科大	1
高千穂大	1
宝塚大	4
拓殖大	6
玉川大	4
多摩美術大	1
中央学院大	13
中央大	15
千葉科学大	1
千葉工業大	16
千葉商科大	2
帝京科学大	13
帝京大	48
帝京平成大	20
デジタルハリウッド大	4
東海大	7
東京有明医療大	1
東京家政大	5
東京経済大	7
東京工科大	13
東京工芸大	4
東京国際大	28
東京女子体育大	1
東京女子大	2
東京成徳大	1
東京造形大	1
東京電機大	16
東京都市大	3
東京農業大	4
東京富士大	1
東京福祉大	5

私立大学	
東京未来大	1
東京薬大	1
東京理科大	10
東都医療大	7
東邦大	3
東邦音大	1
富山国際大	1
東洋学園大	8
東洋大	37
二松学舎大	2
日本工業大	19
日本大	27
日本文化大	1
日本保健医療大	9
日本薬科大	5
人間総合科学大	3
南九州大	1
武蔵大	9
武蔵野大	1
阪南大	1
文化女子大	8
文京学院大	6
文教大	10
文星芸術大	2
平成国際大	4
法政大	7
ものつくり大	2
明海大	5
明治学院大	1
明治大	6
明星大	3
目白大	20
立教大	2
立正大	19
立命館大	1
流通経済大	12
早稲田大	1
獨協大	9
ヤマザキ学園大学	3
横浜美術大	1
私立大 小計	**851**
4年制大学 合計	**879**

看護・医療系 専門学校	
さいたま市高等看護専門	1
戸田中央看護専門	2
慈恵看護専門	1
慈恵柏看護専門	1
上尾中央医療専門	1
帝京高等看護学院	2
東京豊島医療福祉専門	1
東武医学技術専門	2
日本医科学看護専門	1
看護・医療 専門学校 小計	**12**

短期大学	
共立女子短大	3
桐生大短大部	1
戸板女子短大	1
国学院大栃木短大	1
国際学院埼玉短大	2
埼玉女子短大	3
山野美容芸術短大	2
自由が丘産能短大	2
実践女子短大	1
秋草学園短大	1
十文字学園女子短大	1
淑徳短大	6
女子栄養大短大	1
女子美術大短大	4
城西短大	3
新渡戸文化短大	1
星美学園短大	5
聖徳大短大	6
青山学院女子短大	3
千葉経済大短大	1
川口短大	3
大妻女大短大部	2
帝京短大	2
帝京平成看護短大	2
東京交通短大	1
東京成徳短大	1
東京農業大短大	2
日本歯科大東京短大	1
日本大短大部	1
文京学院短大	1
目白大短大部	2
短期大学 小計	**66**

専門学校	
ESPミュージカルアカデミー	2
アミューズメントメディア総合	1
エコール辻東京	1
ハリウッドビューティ専門	2
ヒューマンアカデミー	1
阿佐ヶ谷美術専門	1
関東工業自動車大学校	2
郡山ビジネス専門	1
国際文化理容美容専門	2
埼玉コンピュータ&医療事務	1
埼玉県理容美容専門	1
埼玉自動車大学校	2
埼玉福祉専門	1
山野美容専門	2
尚美ミュージックカレッジ専門	1
上野法律専門	1
織田ファッション専門	1
神田外語学院専門	1
専門学校ビジョナリーアーツ	1
早稲田医学院歯科衛生士	1
早稲田美容専門	1
太陽歯科衛生士専門	2
大宮国際動物専門	2
大原簿記専門	1
中央工学校	1
東京コミュニケーションアート	1
東京ビューティアート専門	1
東京ホテルビジネス専門	1
東京観光専門	1
東京歯科衛生専門	1
東京自動車大学校	2
東京調理師専門	1
東放学園専門	2
日本ペットアニマル専門	1
日本外国語専門	2
日本工学院専門	2
日本電子専門	1
日本動物専門	1
日本美容専門	1
専門学校 小計	**51**

第31期卒業生
在籍 900名

信州大学教育学部　一般入試

Ⅰ類特別選抜
磯部　修資
（さいたま市立与野東中学校出身）

私は、信州大学教育学部に後期日程で合格しました。国立の前期試験で不合格になった翌日から後期試験に向けての猛特訓が始まりました。不合格のショックも抜けぬまま面接練習を始めたわけですが、練習を重ねていくうちにショックも消え、また先生方の支えもあり、試験に向けて突き進むことができました。

入試は、下手をすると長期戦になります。その中で、自分の"気"を1本に集中させることは大変難しいことです。しかし、決してネガティブな気持ちになってはいけません。そういった感情が生まれると立ち直るまでに時間がかかります。いつでも前を向いて、ゴールを目指し続けることが大事です。

「最後に笑えるのは自分」ということを忘れず、頑張ってください。

早稲田大学政治経済学部　一般入試

Ⅰ類特別選抜
小山　拓人
（さいたま市立木崎中学校出身）

私が本格的に受験勉強に取り組みはじめたのは、2年生の夏ごろでしたが、入学したコースがⅠ類だったこともあり、普段から予習・復習をかかさないようにしていました。そのおかげで、受験勉強をはじめた後も、あせらず着実に演習をこなすことができたと思います。

浦学のⅠ類は、毎日7時間授業に放課後の予備校講座と、とても"詰まった"カリキュラムです。宿題も多く、全てをこなすのは大変ですが、そのおかげで確かな基礎力と応用力を身につけられます。3年次の夏期合宿や特別授業では、東大などの上位国公立や、早稲田などの難関大学の過去問題を演習したこともあり、私は、予備校に通わず早稲田に合格できました。

一般入試で何よりも重要なのは、多くの演習を何度も反復することで得られる基礎力です。みなさんも、浦和学院で学び、第1志望大学の合格を勝ち取って下さい。

区　分	合格人数	現役合格率
国公立大学	28名	81.5%
私立大学	706名	
短期大学	59名	6.6%
大学・短大計	793名	88.1%
看護医療系専門学校	11名	6.9%
その他の専門学校	51名	
総　計	855名	95.0%

※上記は、大学・短大合格者のうち、入学辞退した進学準備者を含めた人数。

大学合格者体験記

国際教養大学国際教養学部　一般入試

ＧＬコース
上野　耕大
（越谷市立中央中学校出身）

私が、センター試験の勉強を始めたのは試験の約1ヶ月半前からでした。というのも、それまではＡＯ入試でこの大学の合格を目指していたからでした。また、2年次の1年間の留学のためブランクがあり、他の受験生と比べてかなり遅いスタートでとても不安でした。しかし、浦学の先生方と二人三脚で勉強し、本番では目標の8割を超えることができました。
この大学のＡ日程の2次試験では、国語と英語のエッセイがあり、特にエッセイは長文を読んだ上で論理的かつ多量な字数を書かなければならなかったため、注意が必要でした。毎日ペースを保って書き続けるのは大変でしたが、周りの友人や先生、家族に支えられ、そして何よりも自分の合格のモチベーションに強く背中を押されながらノルマをクリアし、試験当日をむかえることができました。
受験は辛いけれど、受験生は決して独りではありません。がんばってください。

慶應大学総合政策学部　一般入試

ＧＬコース
清水　彩
（越谷市立千間台中学校出身）

私は留学経験があり、英検やＴＯＥＩＣ等を取得していたため、当初はＡＯ入試で第１志望である慶應大学総合政策学部を受験しましたが、結果は不合格でした。どうしても第１志望を諦められなかった私は、少しでも可能性があるならと考え、一般受験をすることを決意しました。入試日が迫るにつれて不安や焦り募りましたが、ともに志望校合格を目指す仲間達の存在や、多くの先生方からのお言葉・サポートに支えられて本番の試験に望むことができ、その結果第１志望に合格することもできました。
私が合格できたのは、家族や友人、そして何より浦和学院の先生方のおかげです。受験は決して楽なものではないけれど、その分その過程で得られるものも多く、やり遂げた後の達成感や自分への自信は今後の人生でも活かされると思います。最後まで諦めずに後悔のない進路活動をして下さい。

東京理科大学理工学部　一般入試

Ｉ類特別進学
品田　翔太
（さいたま市立内谷中学校出身）

一般入試での合格は簡単ではありません。年々浪人生の数は増加の一途を辿っています。そんな浪人生は現役生の強大な敵です。しかし、浪人生の強大な敵もまた現役生です。思考の柔軟さは18歳がピークなので、現役生は柔軟さで浪人生に勝っています。その柔軟さを最大限に活かせば勝てるのです。時には「もっと早くに勉強していれば…。」と思うこともあるでしょうが、－後悔先に立たず－現実を受けとめて前に進むしかないのです。
浦和学院には、短所を克服し、長所を伸ばす為に尽力して下さる先生方がたくさんいらっしゃいます。上手く活かして早め早めに取り組み、合格する自分を鮮明に思い描ければ受験など恐しものではありません。
「この人が特別なだけで、自分なんか…。」という方は。黒人初の米大統領オバマの言葉を心で反芻して下さい。"Yas We　Can"－あなたの可能性もまた、無限大です。－

上智大学外国語学部　公募推薦

ＧＬコース
服部　沙耶
（さいたま市立土合中学校出身）

私は、約１年間のカナダ留学での経験を通し、とても多くのことを学びました。また、カナダは多文化主義国ということもあり、英語以外の言葉や多文化に触れることができました。このことから、私は、帰国後も外国人と関わり、様々なことを学びたいと考え、祖父母から聞いたことのある出稼ぎに来日しているブラジル人について調べるようになりました。そして、私は、出稼ぎに来ている人々の現状を知り、彼らの住みやすい環境作りに貢献したいと思い、上智大学でポルトガル語を学ぼうと考えました。
公募推薦は、8000字のレポートやプレゼンテーションなどがあり大変でしたが、多くの先生方のご指導や両親や友人の支えがあったおかげで合格することができました。本当にありがとうございます。この受験により、興味のあることは調べ、目標を持ち、感謝の心を忘れず、最後まで諦めずに全力投球で努力することが大切だということがわかりました。

明治大学経営学部　A.O入試

Ⅱ類文理選抜
金　道燁
（草加市立両新田中学校出身）

私は、2年の3学期にこの入試方法を知りました。ＡＯ入試は、自分の得意な部分をアピールすることができ、学部への適性を見てもらうことのできる入試方法であると思います。
しかし、早い時期から準備にとりかからなくてはいけないため、周りの人達よりも早く受験に取り組みました。ＡＯ入試は倍率が高いため、万が一のために一般入試の勉強もしなくてはならなかったので、精神的にも非常に疲れると思います。しかし、周りの友達に支えられ、また、担任の安蒜先生や進路指導部の角道先生にアドバイスをいただきながら、何とかやり抜くことができたと思います。
大学受験は、自分との戦いでもあるために、とても長い道のりになると思います。この時期を乗り越えると、心身共に成長することができると思います。そして、この場を借りて自分を支えてくれた周りの先生方や自分の合格を一緒に喜んでくれた友人に感謝します。

筑波大学体育専門学群　スポーツ推薦

Ⅱ類文理進学
加藤　芳規
（吉川市立中央中学校出身）

私は、高校3年間「文武両道」でやってきました。ハンドボール部では毎日遅くまで練習に取り組み、海外遠征も何度か体験させていただき、学業以外でも充実した高校生活を送らせていただきました。1年生の頃から、定期テストも満足のいく結果が出るように部活動をしながらも計画をたて、予定通りに勉強をこなし、良い成績がとれるように努力しました。
受験をするにあたって特に努力したのが小論文です。高校1年生の時からやってきたリテラシーの知識を活かしながら、国語の先生に放課後の時間を使い指導していただき、文章を書く力がつきました。その結果、無事合格することができました。受験を通じて感じたことは、「毎日の積み重ね」と「感謝の気持ち」です。入学した時からやるべきことをやっていれば、3年後には嬉しい思いが出来ます。そして、進路活動に携わっていただいた先生、両親がいなければ、この結果が出なかったと思います。この感謝の気持ちを忘れずに、大学生活も「文武両道」を貫きたいと思います。本当ありがとうございました。

駒澤大学グローバルメディアスタディーズ学部　公募推薦

Ⅱ類文理進学
渡部　彩夏
（上尾市立大石中学校出身）

私が公募推薦に挑戦しようと決めたのは、高校3年生になってからでした。この公募推薦を受験するにあたって特に大変だったのは、小論文です。過去問をはじめ、進路指導部の先生から出して頂いた問題を何度も解き、毎日進路指導部に通いました。その都度添削もしていただき、たくさんのアドバイスを頂きました。それを繰り返していくうちに自信をつけていくことが出来ました。また、英語の面接もあったため、週に1、2回英語の教科担当の先生に放課後練習をしていただきました。質問されるだろうと予想される受け答えをいくつも用意し、自信を持って答えられるように準備をしました。
推薦入試といえ、楽に合格できるものではないと思います。途中で悩んだり挫折してしまいそうになるかもしれませんが、諦めずに合格したいという強い気持ちを忘れずに最後まで頑張って下さい。

埼玉県立大学保健医療福祉学部　公募推薦

Ⅱ類保健医療
原田　実佳
（さいたま市立植竹中学校出身）

保健医療の授業で見学をして、県立大が私の目標になりました。英文の小論文、文法や読解問題も出題される県立大の受験はとても不安でした。しかし、英語の教科担任の先生方にマンツーマンで指導していただき、不安を解消する位勉強しようと思いました。昼休みには単語テストを、放課後には長文読解を毎日毎日二人の先生にみていただきました。直接練習は保健医療の授業中に大学の先生に、放課後は本校の先生方に、休み時間は友人に、常にはきはきと答えられるように助言をもらいました。小論文はグラフの読み取りを何題も書きました。このように、私の受験は、多くの方々の励ましや支えが詰まっています。試験前日、弱気になってしまった私を温かい言葉で励ましてくれた「チーム医療」を志す仲間の存在が合格へ導いてくれたと感じます。受験は自分との戦いですが、必ず周囲に支えてくれる人がいます。諦めずに頑張ってください。

東洋大学文学部　指定校推薦

Ⅱ類一般進学
植竹　由貴
（越谷市立南中学校出身）

私は、高校3年間「文武両道」を目標にしてきました。部活動を通じて目標に向かい、何事も全力で取り組む大切さを学びました。
私が進路活動を始めたのは、部活動の引退後でした。当初は目指す大学もありませんでした。ただ推薦受験で大学に行ければ良いと思っていました。そんな中、オープンキャンパスや進路相談会などに参加した時に有名な東洋大学に心を惹かれ、迷わずに受験しようと思いました。
先生方には、本当にお世話になり感謝の気持ちでいっぱいです。浦和学院に入学して本当に良かったと思いました。
受験は、推薦にしても楽なものではありません。受験勉強だけを頑張るのではなく、1日1日をその時自分のやるべき事を頑張る事が大切だと思います。これから辛い事があると思いますが、自分の夢・進路に向かって頑張って行って下さい。

東海大学情報通信学部　指定校推薦

Ⅲ類情報選抜
加藤　弘明
（鳩ヶ谷市立里中学校出身）

私が進路活動に取り組み始めたのは3年生になってからです。当初はどこの大学に推薦で入るかは決めていませんでした。担任の先生に勧められて東海大学を知りました。オープンキャンパスに参加してみると、最新の設備が整っており、さらに様々な専門科目があり、将来の夢を叶えるための最適な環境であると思い、この大学に入りたいと思うようになりました。
先生方には、小論文や面接対策をしていただき、無事に合格することができました。
受験は大変なことですが、たくさんの先生方が力を貸してくれます。私もそのおかげで合格することができたと思います。皆さんも最後まで諦めずに頑張って下さい。

日本大学芸術学部　A.O入試

Ⅲ類美術コース
田中　美咲
（さいたま市立大久保中学校出身）

私は日本大学芸術学部どころか、大学進学すら危ういのではないというくらい成績はあまり良くはありませんでした。大学はどうしようかと考えていたところ、先生が日芸のＡＯ入試を受けてみないかと進めてくださり、半分記念のような気持ちで受験を決めました。
私は昔から絵が好きで、絵ばかり描いて自己満足をしていましたが、今回美術大学を受けるにあたり、自分が好きでやってきことがいろいろな人に評価されることが、とても新鮮でした。ＡＯ入試はやらなくてはならないことがたくさんあります。エントリーシートの記入、１次審査のスケッチブックと課題のデッサン、それが通過して、やっと実技テストでした。実技テストに通過するまでが大変で、本当にたくさんの先生方にお世話になりました。何か１つだけでも好きなことがあると、それはすごい強みになるのだと合格して思いました。
在校生の皆さんも、ぜひ好きなことをあきらめずに追求していってください。

修学旅行「忘れられない7日間」

3年S組　橋田　源己

私はこの修学旅行でさまざまな事を学びました。1つ目は、集団行動の大切さ。これは、自分一人の修学旅行ではなく、クラス、そして同じ団のみんなと一緒という1人1人の責任と緊張感を学べる事ができ、自分が何か成長できた7日間だったということ。

2つ目は、水と食べ物の大切さ、これはファームステイのお孫さんと散歩に行った時、川があり、お孫さんが川を見て「ウォーター、ウォーター」と叫んで大喜びしているのを見て自分は日本で川を見ても何とも思わないのにこの子は川を見ただけでこんなに喜ぶということはよっぽど水が不足しているんだなと思い、日本でよかったという安心感を抱いた。

食事の時はふだんは嫌いな食べ物はあまり食べない私は、口にあわない料理が出たとき無意識に全部食べた。出された物は残さず食べるという気持ちになった。このことは、当たり前の事を忘れていた自分を気付かせてくれたと思う。この「水」と「食べ物」については、あらためて学び直させられたと思う。

3つ目は、英語力。オーストラリアは英語だったので、なかなか相手とうまく話せなくて修学旅行で一番困った事だった。私は、日本人だから英語など学ぶ必要はないと言っていたが、英語が話せればだいたいの国では、会話ができるのだと思い、英語の必要性を学んだ。

この3つが主に私が学んだことだと思う。修学旅行を通じて、私はまだまだ未熟だと思い、これからのテスト、そして進路にむけてしっかりと自分を追い詰めながら勉強をし、卒業までには社会にでても通用するような自分でありたいと思う。そしてこの修学旅行はとても楽しかった。

交換留学生

昨年9月、チェコ共和国から交換留学生ヤン・レズニークさんが浦学に来ました。

浦学の生徒宅にホームステイしながら通学し、グローバルクラスや選抜クラスで授業に参加し、部活動はパワーリフティング部で活動をしていました。

3月中旬には帰国しましたが、日本語の読み書きや会話もかなり上達し、日本の文化と浦学の校風もしっかり身についたようです。

ヤン・レズニーク　18歳
出身：チェコ共和国
趣味：スポーツ（レスリング・合気道）、習字、音楽を聴くこと、日本語

浦学に留学して感じたこと

浦和学院で去年の9月から勉強するチェコ共和国から留学生です。日本語も日本の文化も日本の人も大好きです。だから日常の高校生活はとても楽しいです。良い経験にも成りました。

日本の習慣と日本人の振る舞いはヨーロッパのものと結構違います。例えば、日本に来る前には、毎日4時まで学校にいて、その後部活を毎日することは想像できなかったです。でも今、日本に居るなら、全く普通なことです。さらに日本人のユーモアとか、色々な考え方とか単に慣れなくてはいけないことです。

私の学校生活で、1年A組と1年F組のみんなと一緒の授業以外に、9月から3つの部（パワーリフティング部と柔道部とレスリング部）に入ることもできました。部活は、授業でクラスで座りながら勉強の後、楽しいレクレーションとしてとても好きになりました。

日本の高校に1人のチェコ人がいるのはたまにちょっと大変なこともあります。日本人とのコミュニケーションで言葉の壁とか時々の退屈とかがあります。でも、先生方も学生達もの優しさと色々なお世話の御陰で、私の日本での生活はすごく楽しくなりました。ありがとう浦和学院！（文章はすべてヤンの直筆による）

British Hills 語学研修

2年L組　圓道　由梨

私はこの3日間の語学研修で、沢山の事が身につきました。それは、“人と接することの楽しさと難しさ”です。日本の中にいても、少し周りの環境が変わるだけで、人との接し方や感情の表現がこんなにも難しくなるなんてとてもびっくりしました。英語しか通じない相手に、必死で自分の意志を伝えなければいけない時、どんなに英語がうまくしゃべれなくても、普段より相手に伝えようとする態度や、どうしたらうまく伝わるか、と色々な表現方法がどんどんでてきて、自然といつもより英語と深くかかわる事ができ、自分の中にある様々な可能性をひきだす事ができました。自分の限界までチャレンジし続けて、その努力が相手に伝わった時は、とても嬉しくて、その度に感動していました。

また、友達と協力することの楽しさや大変さも、実感することができました。うまく相手に言葉が伝わらない時は、お互い助け合いながら、苦難を乗り越えられたときもありました。自分1人の力ではできないとき、こうして沢山の友達や周りの人に支えられて困難を乗り越えられるという事は、この語学研修だけでなく、どこにいても生きている限りはずっとくり返される事であるということに、また改めて気付かされました。

今回のこの経験をふまえて、自分の中にあるいろいろな面を成長させることができました。今まであまり気にかけていなかった、生活態度やマナーなど、いろいろな知識や文化も沢山知り、理解する事ができ、行ってよかったと心から思えた3日間でした。この研修をきっかけに、今後の自分をもっといい方向に変えていけたらいいと思っています。

卒業記念講演会

～脳科学者　澤口　俊之氏～

22年度卒業記念講演会は、脳科学者の澤口先生が来校されました。

最近では、フジテレビ系「ホンマでっか！？TV」に出演し、その独特のキャラクターと言動が印象深い先生です。

ご本人は、本当に研究者らしいまじめな方ですが、独特な語り口と気さくな人柄で、なぜか笑いが起こってしまうという不思議なオーラを持っています。

‘人間の脳と心’を、身近な例をあげながら熱く語っていただきました。あまりに脳の話に夢中になり、少し内容が難しくなってしまう場面もありましたが、生徒も教員もみな澤口先生の魅力的な語り口に惹きつけられていました。

卒業生のみなさんの心に、澤口先生のお話の一片を記憶に残してほしいと思います。

大震災　今、浦学にできること

「自然の恵みと電力の供給」に今こそ恩返し②

①は生徒指導部発行「吾道」に寄稿させていただきました。

「涙の数だけ強くなれる…」という歌が何度も頭の中をよぎる。それはあまりにも被災者の方々の「笑顔」が絶えないから。「きっと、笑顔しか残っていないのだろうか」「泣き疲れてしまったのだろうか」と思うほど、元気を表に出されています。きっと支援する私たちに不安を与えないようにされていたのだと思います。映像から流れる被災地の状況と実際は大きく異なり、写されることのない「被災地の中の避難所」や、市内全体の状況はその場を経験した者しか伝えることができないでしょう。

本校では東日本大震災対策本部が設置され「甲子園全校応援自粛のエネルギーを被災地に向ける活動」がスタートしました。震災の翌々日直ちに、①日頃からボランティアでお世話になっている福祉施設「蓮田翔裕園」の姉妹施設が宮城県登米市にあります。寝たきりのご老人は食糧も暖房もなく、学校で備蓄していた灯油を直ちにお分けしました。②福島原発で避難を余儀なくされた方々が学校近くの施設で生活しています。ここでは、ミルクを作る飲料水が喜ばれました。自宅を離れることで会社に休職を申し込んだ方は、「解雇通告を受けた」と聞かされました。③そして、「今できることは、行き渡らない支援物資を直接搬送」と決め、第3回目の活動は自分たちの手で被災地に運ぶこととなり4月1日から3日間の石巻市（石巻専修大学）支援につながりました。単なる物資供給ではなく、地域の方々にもご協力をいただき、たくさんのペットボトルを集め水道水を運びました。手を洗う水、仮設トイレを流す水、清掃する水もなく不便な思いをされていましたので、とても喜ばれました。特にお年寄りは、給水タンクが運べないので、ペットボトルは名案だったようです。

さらに4月25日・26日再度石巻市を訪問し、物資搬送はもとより今後の具体的な支援方法を話し合ってまいりました。

一、被災者の方々が直接臨む支援物資
一、生徒・教職員が心のケア等でお手伝いできること
一、健康科学センターを所有する本校ならでは、携帯型心電図の有効活用

このような形で、生徒・教職員は「今、浦学にできること」を実践しています。震災直後の食料・燃料中心の支援から、所有する給水車まで持ち込んだ生活支援、さらに1ヶ月後、半年後に変わってくる支援状況に対応できるよう校内の動きは活発です。生徒活動部が「全部活動で寄せ書きを作成してエールを送る」。野球部が中心となり「野球道具を集め送りました」。カウンセラー室が中心となり「絵本の読み聞かせ隊」を結成しました。このように校長方針である「一人ひとりが何かを感じ、考え、すぐに行動する。自分たちに何ができるか。」が大震災の教訓を前向きに教育に活かすことに定着しています。

私は、今まで被災地から授かってきた『自然の恵みと電力の供給』に、今こそ恩返しする時だと思っています。支援活動は今がスタートであり、息を長く継続していかなくてはなりません。戦後、日本を復興させて下った方々のためにも……。

最後に、本校の支援に対し、多く皆様にご賛同をいただき物品をお預かり致しました。「皆様の善意は責任をもって被災地にお送りさせていただきます」。そして、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

（支援活動と支援者一覧は、本校ホームページに掲載させていただきます。）

東日本大震災対策本部渉外担当
車谷　裕通（企画部長兼事務部長）